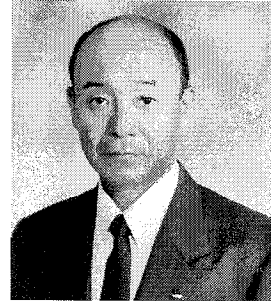


## 三陽機器株式会社

— 創造開発に徹して —



代表取締役社長 寺前公平

弊社はベンチャー企業として創業以来、『創』を経営方針に新製品開発と人材開発に努めてまいりました。人材開発につきましては本誌「ひまわり」Vol. 3におきまして、「いきいきとした人づくり」というテーマにてご紹介しました。今回の「我が社の歩み」におきましては新製品開発を中心に投稿させていただきます。

### 沿 革

昭和41年6月、本社を兵庫県尼崎市に、岡山工場を岡山県笠岡市に置いて創業しました。初代社長の松本和正(故人)が矢野啓一(現相談役)とともに、日本農業の機械化・省力化時代を見越して、農業トラクタの前部に装着して堆肥・土砂・牧草などの運搬に幅広く活躍する農業機械(フロントローダ)の開発のために設立しました。

その後、昭和44年に本社・伊丹工場を兵庫県伊丹市に、昭和45年に岡山工場を岡山県里庄町にそれぞれ新設移転し、さらに昭和63年に本社を岡山県里庄町に移転して現在に至っています。

当社は創業当初からベンチャー企業を目指し研究開発に専念し、製造は協力会社に委託するアウトソーシングを取り入れました。その理由は研究開発に経営資源を集中し、製造は高い生産技術力と品質管理力を有する協力会社に生産委託することにより、品質・コスト・納期面において常に優

位性が確保できるからです。また、販売は主に農業用トラクタメーカーへのルート販売の形態をとってまいりました。

### フロントローダ

創業時には、外国製フロントローダが出回っていましたが、当社製フロントローダは国産第一号と技術開発力の強みを発揮して国内シェアを高めていきました。

私たちは、常に「自分たちの報酬はユーザーから頂戴している」という考えに立ち、ユーザーに『よろこばれる』フロントローダを探し続けてまいりました。

そして昭和46年にフロントローダに関する顧



フロントローダ

客ニーズを大々的に全国調査しました。その結果、「リフトアームの着脱が簡単なフロントローダが欲しい」というニーズに応じて、「従来は二人がかりで二十分程度必要だった着脱作業を、工具を使わずに一人で一分間にて可能にした」ドッキングローダの開発に成功しました。世界に先駆けての開発と販売を行ない、一気に業績を伸ばせる結果となりました。

昭和51年頃には農業機械ブームが追い風となり、国内トラクタの年間生産台数が21万台に達した時には、弊社も年間1万台を超えるフロントローダを生産しました。

昭和54年には世界で初めて、油圧による平行昇降を1本の操作レバーとローダ専用バルブ（方向制御弁）により可能にしたニュードッキングローダ「ロードマスター」を開発。

昭和56年には、油圧による着脱を可能にしたオートドッキングローダ「ロードマスターAD」を開発しました。

現在もフロントローダにおいては約70%の国内シェアを誇り、会社設立以来、一貫してトップの座を守り続けています。

一方、サービス体制としましては、昭和55年10月にキメ細かなサービスと情報収集を迅速かつ確実にするために、サービス部門を三陽サービス株式会社として分離、独立させ、全国6カ所に営業所を構えました。精鋭の社員を配置し、現在に至るまで取引先とユーザーから高い信頼を得ています。

昭和57年には電動式のハイレックバルブ（電磁弁）を開発し、さらに昭和60年には電子制御により作動する「ロードマスターIC」を開発。平成元年にはマイコン制御タイプの「ロードマスターMC」を開発しました。

小型トラクタ専用の軽量・安価ローダの開発にも注力し、昭和60年にミニマスターを開発しました。さらにユーザーニーズにマッチする小型トラクタ用ローダを開発するため、原点に立ち返って全国ユーザーの生の声を聞きました。その結果、高齢化により労力軽減のためにローダの導入を希望している水田農家や、除雪のために購入したい農家が多いことが判明しました。そして、ユーザーの要求する仕様（小型・安価・高性能）を実現して、平成11年にミニローダとして市場投入した結果、大好評を得ました。



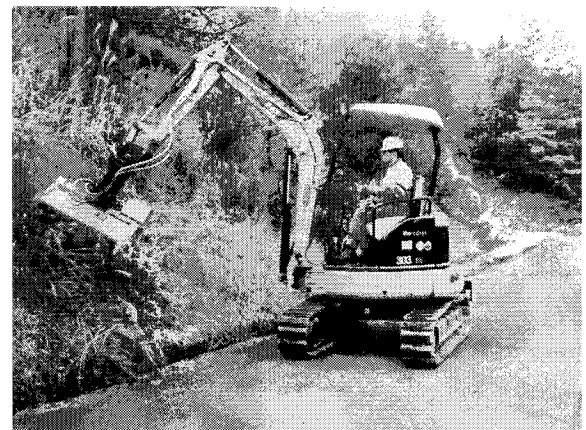
ミニローダ

## ☀ 油圧機器

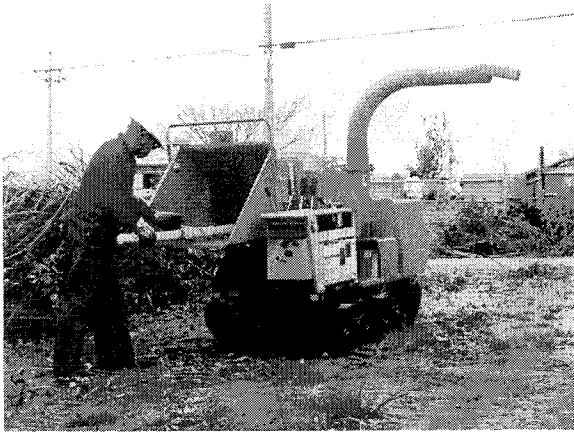
創業直後、農業用トラクタの作業機を動かす油圧機器の開発にも着手しました。当時の輸入品は、その品質、納期、価格のいずれにおいても満足できないものでしたので、自社開発に踏み切りました。その後、油圧機器を制御するための電子機器・システムの開発に着手し、トラクタ用インプレメントと産業機械に使用されるまでになりました。現在では精密な位置制御、スムーズな速度制御を組み込んだメカトロシステムとして各種機械に採用されています。

## ☀ 環境関連機械

地球規模において環境保全の重要性が問われている中で、平成5年から環境関連機械の開発に本



パワーショベル用ハンマーナイフモアー



グリーンフレーカ

格的に取り組むことになりました。

まず草刈機にて、平成6年にトラクタ前装式フロントリーパー、平成8年にパワーショベル用ハンマーナイフモアー、トラクタ前装式ツインモアー、平成9年にトラクタ三点リンク装着式ツインモアーを開発、発売しました。

平成12年には環境汚染の原因となる野焼き禁止規制に対応するため、樹木破砕機「グリーンフレーカ」を開発しました。これは、剪定枝や伐採木などをチップ状に減容化して、堆肥などにリサ

イクル活用することができます。造園業、リース業、農家、一般企業などあらゆる分野で使用され、自走タイプ（ディーゼルエンジン、ガソリンエンジン）、軽四トラック搭載タイプ、トラクタ装着タイプ、静音タイプなどシリーズ化を図り好評を得ています。

同じ平成12年にはもみ殻をすりつぶして堆肥などに再利用するための、トラクタ三点リンク装着式もみ殻すりつぶし機「モミル」を開発しました。

その他の製品としましては、油圧技術を応用した空気圧制御の気圧リフター「あげ太郎」シリーズ、投光機用リフター、防霜ファン用リフター等、各種リフターを開発、発売してきました。

弊社はコア技術である電気・電子制御技術および油圧・空気圧制御技術を駆使して、ユーザーに『よろこばれる』製品を創造開発し続けるとともに、積極的に新分野にも挑戦してまいります。

詳細につきましては弊社ホームページ（<http://www.sanyokiki.co.jp/>）をご高覧頂ければ幸いです。

今後とも皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。